

寝屋川市公共施設等総合管理計画の概要

1 計画の概要 [P1~3]

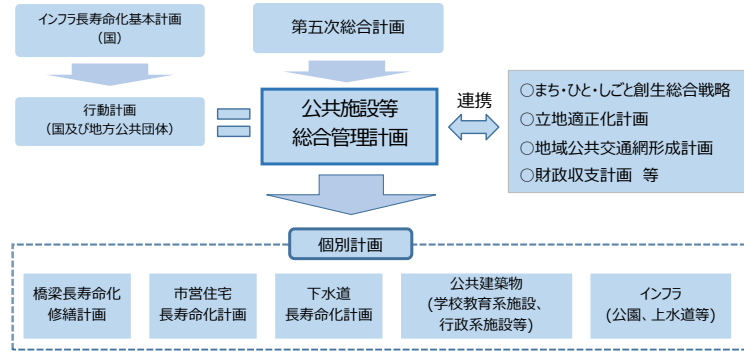
目的

- 市は、昭和40年代から昭和60年代にかけて、公共施設等を集中的に整備しており、今後、多額の財政需要が見込まれる状況
- 人口減少と少子高齢化の進行は、税収の減少や社会保障関連経費の増加を招き、財政状況は更に厳しさを増すことが見込まれるとともに、公共施設等の利用需要が質・量共に変化
- 公共施設等の更新・統廃合・長寿命化等を総合的かつ計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、その最適な配置を実現するため、今後の公共施設等の在り方についての方針を策定

計画期間

平成29年度から平成38年度までの10年間

位置付け

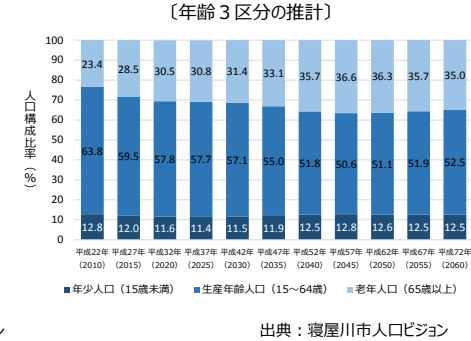
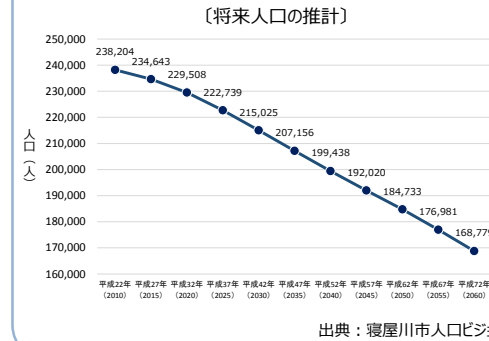


対象範囲

本市が所有する全ての公共建築物、インフラ、土地

2 人口の動向 [P4~6]

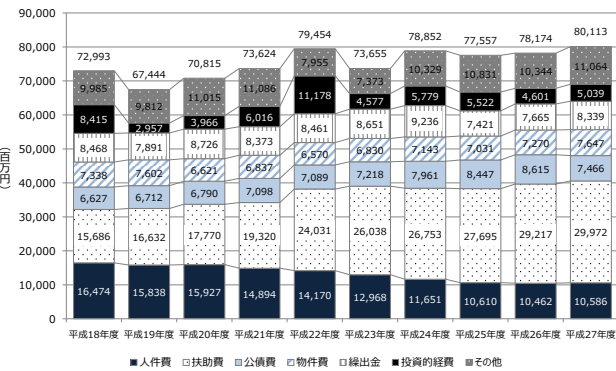
- 平成7年の約26万人をピークに人口は減少
- 平成32年には23万人を割り込み、平成52年には約20万人まで減少
- 老年人口の割合は上昇、生産年齢人口、年少人口の割合は低下
- 人口減に見合った公共施設等の保有水準、世代構成の変化による社会ニーズの変化に対応した機能を提供する必要



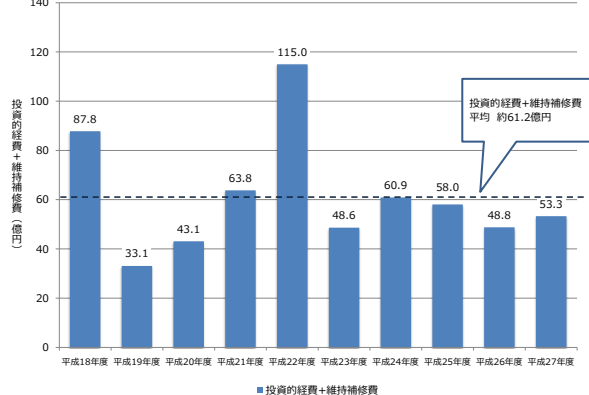
3 財政の状況 [P7~14]

- 普通会計決算の推移
- 地方公営企業会計決算の推移
- 投資的経費、建設改良費等の推移

〔普通会計歳出(決算額)の推移〕



〔投資的経費等の推移〕



普通会計の投資的経費等、地方公営企業会計の建設改良費を合わせると、
年度当たり平均73.6億円の実績

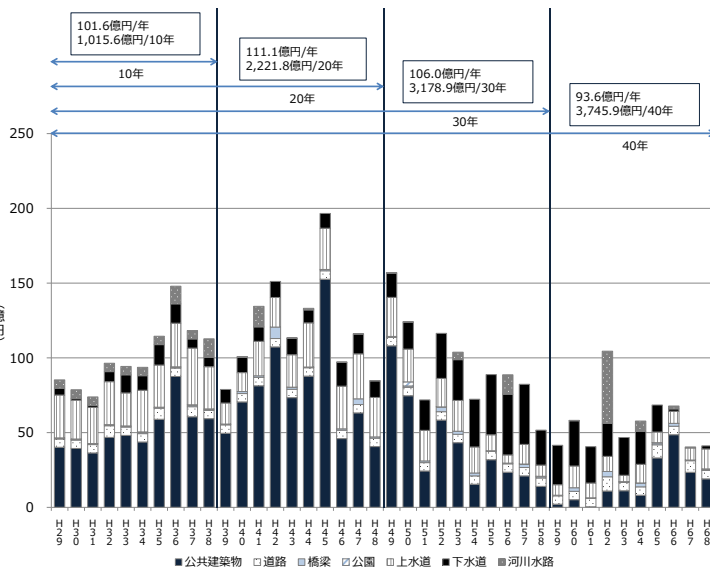
4 公共施設等の現状と課題 [P15~36]

現状

- 【公共建築物】
 - 保有量：161施設 417,443.94㎡
- 【インフラ】
 - 道路・橋梁・公園・上水道・下水道・河川水路
- 【土地】
 - 保有量：1,462,322.94㎡

課題

- 改修・更新費用
 - 平成68年度までに年度当たり平均約93.6億円必要となり、実績の73.6億円を大きく上回る。



5 公共施設等の管理に関する基本的な方針 [P37~41]

3つの基本的な方針



3つの基本的な方針に沿って、施設類型ごとに具体的な方向性

6 施設類型ごとの管理に関する基本的な方針 [P42~68]

計画期間内における公共建築物及びインフラの長寿命化、公共建築物の総量抑制を念頭に置いた施設管理を行う際の指針となる。

- 公共建築物：市民文化系施設など11類型
 - 概要：類型に属する主な施設の名称、特徴等
 - 現状：年間利用者総数、耐震性を有する施設の割合等
 - 視点：類型の特徴等によるニーズや課題等
 - 今後の方針：施設の管理・在り方等を検討する基本的な方針
- インフラ：道路、橋梁、公園、上水道、下水道、河川水路
 - 概要：これまで実施してきた取組等
 - 今後の方針：インフラの維持管理・整備の方針
- 土地
 - 今後の方針：不用地の活用方法

7 計画の推進体制 [P69~70]

全庁的な推進体制の構築

公共施設等総合管理計画推進委員会の設置

人材育成

研修等を通じ職員へ予防保全の考え方を浸透

個別計画の策定

基本的な考え方に基づき、順次策定

計画的な予算確保

改修・更新する施設等の優先順位を整理

施設情報の一元管理

利用状況等に関する施設情報をデータベース化

計画策定後の進め方

立地適正化計画、地域公共交通網形成計画と連携し、5年を目途に見直し